

## 東京停車場建築工事報告

金 井 彦 三 郎

## 屋根及内部工事

屋根構桁ハ既記ノ如ク鋼製ニシテ母屋ハ普通部ニ於テハ約三尺ノ距離ニ於テ二十六通りヲ置キ内八通りハL形鋼ヲ使用シ其他ハ木材ヲ使用セリ塔其他ノ部分ニ於テハ大體普通部ニ倣ヒ木材及鋼ノ母屋ヲ架シ樞ハ木材ニシテ約一尺五寸ノ間隔ニ架ス大サハ各所ニ於テ多少異レリト雖モ普通部ニ於テハ母屋ハ幅三寸五分厚七寸樞ハ幅二寸厚二寸五分裏板ハ厚八分ニシテ用材ハ總テ樞材ナリ裏板上ニハふゑるとヲ布設シ表面ハ石版葺トス石版ハ陸前國雄勝産ノ純黒ノモノニシテ厚正二分幅六寸長一尺二寸ノモノヲ四寸足シニ葺立ツ本屋ニ於ケル各塔ノ頂部屋脊窓周圍軒蛇腹附屬屋ニ於ケル屋根全部各所庇等ハ總テ銅板葺トシ屋上小壁ハ鐵骨ニシテ銅板張トス銅ハ大阪住友製銅所製品ニシテ全部一平方尺ニ付八十目付ナリ而シテ之等ノ使用量ハ石版葺面積二千二百八十五坪五合銅板平葺平包及瓦棒葺面積二千百五十五坪四合軒蛇腹、蛇腹樞及裝飾模樣ヲ有スルモノ延面積二千百十八坪ナリトス

屋上ニハ所々ニ屋脊窓ヲ設ク其員數總計八十七ヶ所ナリトス

雨樋ハ全部表壁ノ外ニ附シ八十目付銅板製ニシテ内徑三寸五分、二寸五分、及二寸ノ三種ヲ併用ス其個

所ハ二百ニケ所榎總延長七千三百五十四尺ニシテ各個トモ地盤以上八尺マテハムらん管ヲ使用セリ  
 以上ノ内本屋ニ屬スルモノハ主トシテ直徑三寸五分ノモノヲ使用シ其員數九十六ヶ所平均建坪  
 約二十五坪ニ付キ一ヶ所トシテ附屬屋及上屋ニ屬スルモノハ八十ヶ所ニシテ平均建坪七坪ニ付キ  
 一ヶ所トシ其直徑ハ二寸五分乃至二寸ヲ主トシテ使用セリ此他二十六ヶ所ハ各所庇ニ屬シ内徑  
 二寸及二寸五分ナリトス  
 内部雜作工事 ハ大體ニ於テ何レモ簡略ニシテ只中央部帝室用各室ニ於テハ多少ノ裝飾ヲ施  
 シタレトモ其他ハ專ラ堅牢ヲ主トシテ造作セリ  
 窓 ハ一階ニ於テハ多クハ上ケ下ケ窓ニシテ上部ニ欄間ヲ有セシ二階ハ兩開キ戸ニシテ同シク欄  
 間ヲ有シ三階及三階以上ハ兩開キ戸ニシテ欄間ヲ有セス其大サハ種々異カリト雖モ一階ニ於テ  
 最モ多數ナルハ高サ十二尺八寸五分幅五尺二階ニ於テハ高サ十尺一寸五分幅五尺三階ニ於テハ  
 大八角廣室周圍ノ分ハ高十一尺五寸幅三尺及四尺五寸中央部ニ於テハ高八尺一寸幅四尺普通部  
 ニ於テハ高六尺一寸幅三尺五寸乃至五尺ニシテ其詳細及採光面積ハ左表ノ如シ

個所	窓ノ大サ (尺)	員數	採光面積 (平方尺)	一個ニ 採光 面積
地中階	各種	23	387.9	
一階	5. × 12.85	77	4947.2	64.25
	4. × 12.85	4	205.6	51.4
	3.5 × 12.85	6	269.9	44.98
	5. × 10.15	4	203.	50.75
	4. × 10.15	12	487.2	40.6
	各種計	29	863.5	29.77
二階	5.5 × 11.3	18	1118.7	62.15
	5. × 10.15	100	5075.	50.75
	4.5 × 10.15	34	1553.	45.68
	4. × 10.15	19	771.4	40.6
	3.5 × 10.15	26	923.6	35.53
	各種計	10	275.9	27.59
三階	4.5 × 11.5	18	931.5	51.75
	3. × 11.5	32	1104.	34.5
	4.5 × 9.4	16	676.8	42.3
	5. × 9.5	12	570.	47.5
	5. × 6.1	70	2409.5	30.5
	4. × 6.1	11	268.4	24.4
	3.5 × 6.1	16	341.6	21.35
	4. × 8.1	8	259.2	32.4
	3.5 × 7.9	10	276.5	27.65
	各種計	17	382.4	22.5
計		219	7219.9	32.97
最上階	各種	87	1326.8	15.25
附屬屋	各種	88	2090.2	23.75
計		756	27718.8	36.51

本館各階中主要ナル室ニ就キ室内容積ト窓ノ採光面積トノ比ヲ求ムルトキハ大略左表ノ如シ

個所	室數	積面 (坪)	容積 (立方尺)	採光面積 (平方尺)	採光面積一平方尺ニ付容積			平均一室採光面積	平均一室容積
					最大	最小	平均		
八角廣室(各階ヲ通シテ)	1	194.0	895850	3956	125.2	59.6	226.5	219.2	147.3
一階帝室用各室	6	194.0	130210	1315	178.3	62.9	99.0	325.0	190.6
各待合室	9	475.9	326930	2925	117.4	50.4	111.7	159.9	115.5
事務室	14	274.1	186940	2238	137.8	44.3	93.1	151.1	118.6
二階事務室	17	412.4	239120	2568	69.7	51.6	63.3	62.3	62.8
旅館用各室	15	115.9	59090	934	158.1	46.6	93.1	192.9	134.0
食堂其他	7	238.3	125690	1350	179.1	41.0	126.6	72.7	95.9
三階事務室	22	419.3	202500	1599	135.2	52.7	80.4	38.1	55.3
旅館用各種	41	294.0	125990	1561					

普通室内ノ採光面積(平方尺)ハ其容積(立方尺)ノ平方根ニ等シケレハ可ナリトス今各室ノ平均容積ノ平方根ヲ求ムレハ前表末行ニ記スカ如ク各室ノ平均採光面積ニ比較スルトキハ三階ニ於ケル一部ヲ除クノ外概シテ充分ノ餘裕アリ又實際ニ於テ各室トモ採光ハ十分ナルカ如シ窓ノ構造用材ハ帝室用ノ各室ニ於ケルモノハ窓枠及建具材トモ檜無節材ニシテ白らっく或ハわにす塗仕上トシ其他各階ニ於ケルモノハ總テ檜小節材ニシテペいんと塗仕上トシ窓硝子板ハ厚正一分トス

帝室用玄關廣室ノ天井ニ於テ四個ノ圓窓ヲ設ク其直徑四尺ニシテすていんどぐらすヲ以テ四神(青龍、朱雀、玄武、白虎)ノ像ヲ製作シ嵌入セリ

出入口ハ各階トモ其構造ハ殆ント同一ニシテ只一階出入口ニ於テハ上部ニ回轉硝子障子ヲ有シ其他ニ於テハ欄間ヲ有セス戸ハ外部ヨリノ出入口其他僅少ノ部分ニ於テハ腰唐戸ヲ用ヒタルトモ多クハ唐戸ニシテ出入口ノ幅三尺五寸以下ノモノハ一枚戸四尺以上ノモノハ二枚或ハ二枚以上ヲ使用セリ

各階ニ於ケル出入口ノ幅及ヒ員數ハ次表ノ如シ

出入口幅(尺)	地下室	一階	二階	三階	三階以上	附屬屋	計
2.5	—	7	36	57	—	33	133
3.0	—	25	43	90	8	4	170
3.5	—	—	14	24	—	—	38
4.0	23	—	2	—	—	—	25
4.5	—	84	43	44	—	14	135
5.0	—	14	3	1	—	1	19
6.0	—	14	6	23	—	3	46
9.0以上	—	10	1	—	—	—	11
計	23	104	148	239	8	55	577

南北出入口廣室ノ出入口ハ各三ヶ所アリ其大サハ各幅十八尺高十三尺七寸ニシテ六枚折戸ヲ設ケ必要ニ依リテハ全部總テ折疊ミ開放セシムルコトヲ得可ク又寒冷ノ候或ハ風雨等ノ時之ヲ閉サストキハ其中央二枚ノミ自由開閉戸トシテ使用スルヲ得可キ裝置トナセリ

出入口枠及ヒ建具用材ハ中央部帝室用各室ニ使用ノモノハ檜無節材ニシテ白らっく塗仕上トシ南北廣室正面出入口六枚折戸ハ概無節材其他ノ各室全部ハ檜小節材ヲ使用シペいんと塗トシ普通ノモノハ蝶番三枚ヲ以テ取付ク

出入口ノ内一階ニ於テ四ヶ所二階及三階ニ於テ十三ヶ所ハ厚十六番鋼鐵製卷込しやったヲ附シ防火ノ用ニ供ス

出入口及窓建具ニ用フル金物ハ地下室及最上階ニ使用セルモノハ眞鍮製其他ニ使用セル全部ハ黃銅製ナリ建具金物ノ内出入口ニ用フル箱錠ハ内部彈條ノ完全ナルモノヲ得ンカ爲メニ特ニ米國ニ於テ製造ノモノヲ使用シタルトモ蝶

番ぐれ、もん其他ノ全部ハ總テ内地製品ヲ使用セリ

窓及出入口建具ニ使用セル硝子板ハ厚正一分ニシテ其總數二萬七千九百平方尺ナリ  
 室内腰羽目 南北八角廣室、各待合室、大廊下、通路、階段、二階ニ於テ帝室用各室及廊下南端ニ於ケル  
 食堂及之ニ附屬スル各室内ニハ高八尺ヨリ十尺五寸ニ至ル木製腰羽目ヲ附ス其延長總計一階ノ  
 分六百四十八間ニシテ表面積約千二十坪二階ノ分延長四百五十八間五合表面積五百五十五坪ナ  
 リトス帝室用各室ノ他ハ用材ハ檜及樅材ヲ使用シ表面ハペイント五回塗仕上トセリ但シ電車線  
 出口通路ノ兩側ニアルモノハペイントニ代ヘテ青色漆ノ三回塗トナセリ此漆塗料ニ要セル費用  
 ハ大體ニ於テハペイント五回塗ト略同一ニシテ其耐久力ニ於テハペイントヨリ遙ニ大ナル可シ  
 ト豫想セリ數年後ノ實驗ニ於テ果シテ然ラハ將來ペイントノ代用トシテ大ニ有效ナル可シ  
 帝室用各室ノ腰羽目ハ總テ檜無節材ニシテ其表面ハ室内ハ白らっく塗廊下ハわにす塗トセリ御  
 休憩室内ノモノハ高七尺一寸五分延長八十尺ニシテ檜板幅一尺乃至一尺二寸ノモノヲ用ヒ分格  
 ニ作り各分格ニハ鳳及菊模様ノ象嵌ヲナセリ出入口扉モ又其表面ニハ腰羽目ト略同様ナル象嵌  
 ヲナセルモノヲ使用ス

各腰羽目下幅木石ハ岐阜縣赤阪町産ノ大理石ヲ使用シ帝室用玄關腰羽目ハ全部大理石ヲ使用シ  
 旅館入口ニケ所ノ玄關腰羽目ハ幅木及笠石ハ大理石羽目ハ人造石ヲ使用セリ

床 二階三階ニ於ケル床ハ階段室ヲ除キタル他ノ部分ハ防火混泥土床ノ上部ニ更ニ木材ノ床ヲ  
 構成セリ床板ハ樅或ハ松材ヲ使用シ幅四寸厚正八分ノ板ヲ實矧トシテ張立ツ其總面積ハ二階千  
 三百一十一坪三階千六百十四坪ナリ

階段室ハ火災其他非常ノ場合ニ於テモ安全ナラシムル爲メ全部不燃質材ヲ使用シ混泥土床ノ表  
 面ニ人造石敷石ヲナセリ二三階ニ於ケル便所洗面所内ノ床ハ混泥土床ノ表面ニたいる或ハ土瀝

606

青ヲ布設セリ  
 天井 ハ帝室用各室及ヒ各待合室、廣室、廊下、食堂等公衆ノ出入ス可キ室ハ木製或ハ漆喰塗天井ヲ  
 作リタレントモ事務室用ノモノハ多クハ上階防火混凝土床ノ下端ニ單ニ漆喰塗ヲ施コセルニ過キス  
 以上各部分ニ使用セル木材ハ檜、樺、榎、松、槻、杉、柏ノ六種ニシテ、杉ノ材ヲ除キタル他ノ全部ハ宮  
 内省帝室林野管理局ヨリ木曾御料林産ノモノヲ丸太材ニテ購入シ工場内ニ木挽工場ヲ設ケ之ニ  
 依リテ所要ノ寸法ニ挽立タリ丸太材ハ各種トモ長サハ二間以上四間以下ニシテ二間及大二間ノ  
 モノ最モ多ク直徑ハ一尺一寸以上ニシテ一尺三寸乃至一尺五寸ノモノ最モ多ク最大徑ハ二尺二  
 三寸ノモノアリ其購入セル丸太材ノ數量ト製材セルモノトノ比較ハ左表ノ如シ

購入セル丸太材數量

種	材	楡圓材	樺圓材	榎圓材	松圓及角材	楓角材	計	百分比例
上	材	716.17	17.88	763.24	20.13	33.14	769.44	4.23
中	材	817.49	948.99	353.98	124.13	33.90	1756.64	9.65
下	材	4206.88	3507.32	2801.42	888.96	40.47	6439.28	35.38
計	材	1821.47	4474.19	3918.64	1040.80	63.59	9234.60	50.74
計	材	7562.01			2074.02	171.10	18199.96	100.00
百分比例		41.55	24.58	21.53	11.40	.94	100.00	

挽立材トシテ使用セル數量

使用箇所	枿材	樺材	楷材	松材	楓材	計	百分比
屋根	440,413	2860,331	364,503	301,233		3966,48	33.16
各階天井	1877,893	43,908	1046,499	234,418		3207,718	26.81
窓	571,520	3,863	3,141	8,595	4,468	591,587	4.95
出入口	830,419	9,827	62,56	22,111	77,354	1002,301	8.38
腰羽目及幅木	455,63	9,311	312,518	373	2,878	730,71	6.53
同床	382,643	408,24	721,157	738,709	2,240	2252,989	18.83
同部	54,358	3,686	78,989	4,145	19,426	160,604	1.34
雑計	4612,876	3344,166	2589,367	1309,584	106,396	11962,389	100.00
丸太材 100. = 對スル使用量ノ割合	61.00	74.7	66.1	63.1	62.2	65.7	

丸太材ト挽立材トノ數量ノ割合ハ前表ノ如ク枿材ノ如キ概シテ表面ニ使用セルモノハ丸太材ノ百分ノ六十一ニ相當シ樺材ノ如キ概シテ屋根材其他比較的大材ニシテ且ツ野角ノ儘使用セルモノハ百分ノ七十四餘ニ當リ木材ノ總平均ハ百分ノ六十六ニ相當セリ然レトモ帝室林野管理局ニテ稱スル丸太材ノ尺ベ計算法ハ末徑ノ二乗ニ長サヲ乘シタルモノニシテ又其長サハ各種ノ圓材トモ總テ一樣ニ三尺ノ延尺アリ(假之ハ二間ノモノハ十五尺三間モノハ二十一尺ノ如シ)故ニ二間材ノ如キモノニアリテハ上記計算法ハ精確ニ計算シタルモノヨリ少ク四間材ノ如キ長大ノモノニアリテハ却テ少シク過大ナリ今實際購入セル圓材ニ就テ計算スルニ上記計算法ニ依レハ前表ノ如ク總尺ベ一萬八千二百本ナルニ之ヲ一個毎ニ精確ニ其容積ヲ計算スルトキハ尺ベ一萬八千九百二十八本ニ相當ス故ニ此數量ト實際使用セル挽立材ノ數量トノ比ヲ求ムルトキハ平均百分ノ六十三ニ相當シ殘餘ノ百分ノ三十六、八ハ背板鼻切其他挽歩等ノ爲メニ減損セルモノナリ本

608

工事中ニ生シタル背板鼻切材ヲ賣却セルモノハ總計約二十七萬六千貫目餘ニシテ概略ノ計算ハ左ノ如クナルカ如シ

購入木材總尺 $\beta$ (實容積ニテ)

内

挽立材トシテ使用セル數量

一一九六二本

背板及鼻切類賣却數二七六二六二貫目  
五十貫目ヲ尺 $\beta$ 一本ト假定スレハ

五五二五本

挽材トナス爲メノ挽歩平均挽材ノ、一一五トス

一三七六本

使用セル鼻切類其他殘品

六五本

檜材ハ木曾御料林中品質ノ最優等ナル小川及玉瀧産出ノモノ五九五七尺 $\beta$ 之ニ次ク阿寺柿其産ノモノ五一五本其他ハ飛驒、蘭、付知等所謂裏木曾産ニシテ多少品質ノ劣ルモノ一〇九〇本ナリ樫材ハ最優等ナル飛驒小阪産ノモノ三三三三本他ノ一一五一本ハ小川柿其、賤母等ノ産ナリ樅材ハ優等ナル小川、玉瀧産ノモノ一三六〇本ニシテ他ハ蘭其他之ニ次ク地ノ産出ナリトス即チ主要材料ハ何レモ御料林中最優等ト稱スルモノ約三分ノ二ヲ占メタリ

製材所ハ工場内ニ設ケ蒸汽罐一臺ヲ据付ケ原働力トシ製材器械トシテハ木材大割用徑五尺ノ丸鋸一臺(二臺据付タルモノ一臺ハ使用スルニ至ラサリシ)腹押丸鋸二臺帶鋸一臺製板用堅鋸一臺トヲ裝置シテ作業セリ而シテ製材ハ明治四十五年五月ヨリ大正二年十月マテ十八ヶ月間ニシテ全部ヲ終了セリ即チ平均一ヶ月ノ製材量ハ尺 $\beta$ 千十一本一日平均三本三分七厘ニ當レリ製材數量ノ最大ナリシハ大正二年五月ニシテ一ヶ月ノ尺 $\beta$ 二千二百九十三本一日平均七本六分四厘ニ當レリ以上ノ外ち $\beta$ く材尺 $\beta$ 五十一本二分ヲ使用セリ外國品ニシテ請負工事費ノ内ニテ請負人ヨリ供給セリ



階段及昇降機 階段ハ總計十ヶ所ニシテ内地中階ヨリ屋根裏ニ通スルモノ二ヶ所同二階マテ通スルモノ一ヶ所一階ヨリ屋根裏ニ達スルモノ二ヶ所同三階マテ達スルモノ三ヶ所二階ヨリ屋根裏ニ達スルモノ二ヶ所ナリトス幅ハ七尺ノモノ二ヶ所六尺ノモノ二ヶ所五尺ノモノ四ヶ所四尺ノモノ一ヶ所二尺五寸ノモノ一ヶ所ナリ何レモ鐵造ニシテ踏板ハちよっかど板ヲ用ヒ其幅一尺蹴上五寸ニシテ踊場ハたいる、人造石、土瀝青等ヲ用ユ各階段ノ内帝室用ニ屬スルモノハ一階ヨリ二階マテハ鐵骨ニシテ混凝土ヲ以テ包積シ表面ハ全部及手摺トモ大理石ヲ用ヒタリ其他各階段ノ手摺ハ平鋼ヲ以テ諸種ノ模様ヲ作り笠木ハ楓材ヲ用ヒ親柱ハ鑄鐵製或ハ楓材ヲ用ヒ彫刻セリ

階段ノ内南北兩端ニアルモノ及中央旅館入口ニアルモノハ之ニ接シテ電働昇降機ヲ設ク米國オチチス (Otis) 會社ノ製品ニシテ室内ノ廣サ内法六尺平方ニシテ載荷重二千七百五十磅昇降ノ速度毎分百二十五呎ニシテ電力ハ交流三相二五さいくる二二〇ぼるとナリ電働機ハ南端ノモノハ地下室ニ置キタルモ中央及北部ノモノハ地下室ヲ有セサルヲ以テ總テ屋根裏ニ定置セリ  
地下室料理場ヨリ一階及二階食堂ニ食品運搬用トシテ昇降機八ヶ所ヲ備フ内法二尺五寸及三尺ニシテ載荷量三百磅現今ハ人力ニ依リ昇降セシムル裝置ナルモ此内五ヶ所ハ電働機ヲ定置スルノ計畫ナリ

漆喰工事 各階室内壁及天井ノ内木製腰羽目及木部天井ヲ除キタル總テハ漆喰塗ニシテ其厚サハ六分内下塗ハ約五厘斑直シ約二分五厘中塗ハ約二分上塗ハ約一分トシ四遍塗ニ仕上ケタリ煉瓦壁或ハ混凝土壁ニハ其表面ニ直ニ塗付ケ木摺壁ハ木摺トシテ幅一寸五分厚三分五厘ノ貫ヲ四分明キニ打付ケ尙平一坪ニ付麻二十五匁ノ割合ヲ以テ小釘頭ニ卷付ケ下ケ葶トシテ使用セリ漆喰調合ハ大略左ノ標準ヲ以テ施工セリト雖モ實施ノ際場所ニ依リ多少參酌セルモノアリ

種目	下塗	斑直シ	中塗	上塗
蠣灰	二、 <small>立方尺</small>	一、 <small>立方尺</small>	二、 <small>立方尺</small>	四、 <small>立方尺</small>
石灰	三、	二、	一、五	一、
砂	三、	二、	一、五	一、
角又	七三〇、	六六〇、	六六〇、	六二〇、
濱勃	五八〇、	五四〇、	五四〇、	四六〇、

壁面及天井ノ各所ニアル繪様彫刻模様ハ  
膏土ヲ以テ原型ヲ作り同一模様ノ多數ナ  
ルモノハ更ニ寒天ヲ以テ雌型ヲ作り石膏  
ヲ以テ製作シ所要ノ個所ニ取付タリ南北  
出入口廣室天井ニ雄飛セル如キ鷲ノ形狀  
ハ大サ八尺餘ナルヲ以テ之ヲ數個ニ分チ  
製作シぼーると及銅鏤ヲ以テ天井木部ニ

繫結セリ

漆喰塗總面積ハ内部羽目塗七千九百四十一坪線形及裝飾ヲ有スル部分千六十五坪天井塗四千七百十坪地中階及空堀等ノせめんと塗面積三百四十三坪合計一萬四千五十九坪ナリトス

漆喰塗ノ内中央帝室用玄關廣室ノ壁及天井同二階待合室ノ壁及南北出入口廣室天井ニハ色漆喰塗ヲ用ヒタルトモ其他ハ總テ白色塗ナリ

塗師工事 中央帝室用各室廊下及其他ニ於テちく材或ハ楓材ヲ用ヒタル部分ハ白らっく或ハわにす塗トシ其他ノ木材表面全部鋼鐵小屋組材庇階段其他ノ鐵材全部ハ總テ着色ペいんと塗トナセリペいんと塗髹ノ方法ハ木材ノ表面ニハ細末ナル鏝紙ヲ以テ磨キ節留ヲナシタル上第一回塗ヲナシ乾燥後更ニ鏝紙磨キヲ加ヘ第二回第三回塗ヲナシ第四回塗ハ砥石ヲ以テ磨キタル後紙磨ヲナシタルペいんと材料ヲ以テ塗髹セリらっく或ハわにす塗モ殆ント之ト同様ニシテ各回鏝紙磨キヲ加ヘ五回塗ニ仕上ケタリペいんと塗總面積ハ一萬六千八百八十坪白らっく塗三百八十四坪わにす塗九百十坪合計一萬七千四百七十四坪ニシテ外ニ木材ノ壁ニ接スル部分ヲこゝるたゝヲ以テ塗髹セルモノ二千四百五十九坪アリ

使用箇所	個所數	積平面積 (平方尺)
各出入口袴腰石及抱幅木石	102	1180.
一階受付臺及出札所	12	1218.
各室幅木石	74	7138.
腰羽目石	5	678.
帝室用床敷	1	1398.
同		4940.
		16552.

大理石工事 一階ニ於ケル重ナル出入口二階三階ニ於ケル階段室ニ接續セル出入口ノ袴腰石及抱幅木石、一階受付臺、一階各室ニ於テ木製腰羽目ヲ有スル部分ノ幅木石、各階段踊場、幅木石、中央帝室用玄關ノ腰羽目、廣室及廊下ノ床面階段等ハ何レモ大理石ヲ使用セリ

大理石ハ岐阜縣不破郡赤阪町ニ產出スルモノハ數量豊富ニシテ其質堅緻磨キテ良好ノ光澤ヲ有スルヲ以テ之ヲ使用セリ赤阪町ニ產スルモノハ其品質模樣等數十種類アリト雖トモ產出量ノ少キモノハ建築材トシテ使用シ難キヲ以テ就中產出量ノ多キモノ即チ同所ニテ霞石、紅縞石、曙石、更紗石、遠目鏡石ト稱スル五種ヲ選ミ併用セリ石材ノ寸法ハ袴腰石及階段ニ使用セルモノハ其所要ノ寸法ニシ幅木石ハ一階ニ於ケルモノハ幅一尺厚二寸階段踊場及二三階ニ於ケルモノハ幅七寸厚一寸腰羽目石及床敷石ハ厚八分トセリ石材ノ内約二分ノ一ハ赤阪町ニ於テ所要ノ形狀寸法ニ

祈リ表面ハ磨キ仕上タル上運搬シ一部ハ原石ノ儘横濱ニ送附シ同所ニ於テ所定ノ形狀ニ仕上タル上建築場ニ運搬シ据付タリ何レモ祈斷及磨キ上ケトモ電働裝置ノ器械ニ依リテ作業セリ

石材据付ニ於テ目地ハ幅一分トシ仕上ハ白せめんトヲ使用セリ

大理石ヲ使用セル個所及數量ハ上表ニ示スカ如シ

以上ノ外帝室用御休憩室內暖爐ニ用ヒタル蛇紋石、食堂内酒場、洗面所内盤石、便所袖石等ニ用ヒタル蛇紋石及白寒水石ハ秩父及水戸地方產出ノモノナリ

室内部裝飾 本建築内部ニハ裝飾ト稱スル部分ナキヲ以テ特ニ記スヲ得スト雖トモ只中央部帝室用各室ニ於テハ高貴ニ對シ敬意ヲ失セサル程度ニ於テ裝飾ヲ施コセリ其概略ハ玄關廣室ハ其四隅ヲ

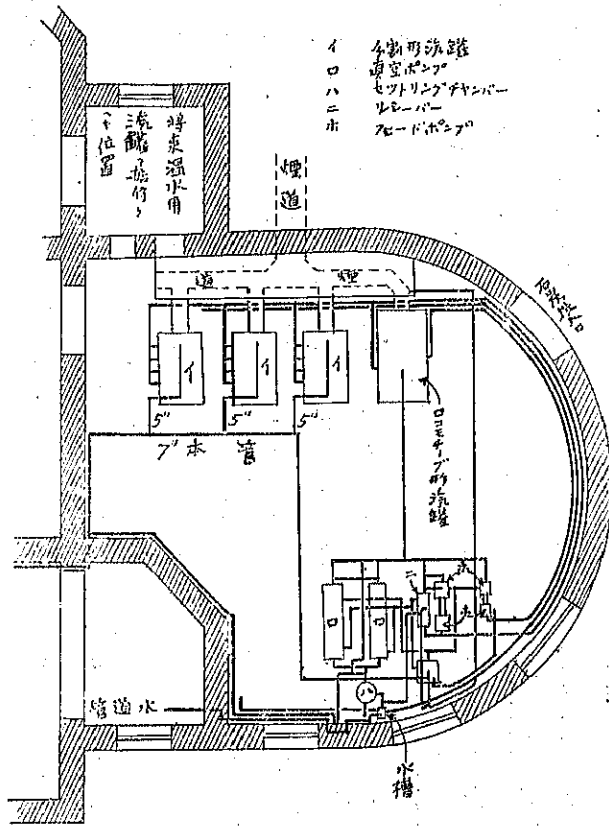
少シク缺キテ八角形ヲナサシメ室ノ高サハ一階二階ヲ通シ普通三階部ニ於テ圓形天井ヲ構成セリ其天井中心ノ高サハ床上四十九尺五寸床面ハ大理石敷石ニシテ周圍壁面ハ一階部ハ檜無節材ノ腰羽目ヲ作り其上部ハ色漆喰塗トシ室ノ四隅ノ缺キタル所即チ八角形ノ少ナル邊ニハ壁龕ヲ設ク普通二階床面ノ高サニ於テ周圍ニ廻廊ヲ設ケ黃銅製手摺ヲ附シ其上部壁面ニ壁畫ヲ掲ク畫面ノ大サハ高サ七尺ニシテ幅ハ二尺二寸ヨリ十七尺ニ至ルモノ合計十面ニシテ畫題ハ海陸ニ於ケル殖産工業ノ意ヲ以テ陸ノ交通、鑛業、農業、林業、工業、海ノ交通、漁業、造船、海運市場等ニシテ總テ之等ノ實狀ヲ表ハシタルモノニシテ東京美術學校ノ製作ニ係ル左右待合室及廊下トモ周圍壁腰羽目、天井等ハ既ニ記セル如ク多少他ノ各室ニ比シテ材料ヲ精選シ且ツ施工程度モ優等ナリト雖トモ特ニ記ス可キ裝飾ナシ

面待合室及御休憩室ニハ各一ヶ所ノ暖爐ヲ置ク其構造ハ御休憩室ノモノハ前飾リハ蛇紋石ノ彫刻セルモノヲ使用シ焚口ハ青銅製ニシテ繪様彫刻ヲ附シ上飾リハ彫刻セル檜材ニシテ鏡板ハ圓形徑二尺七寸ノ無線七寶燒ニシテ波ニ朝日ヲ表ハセリ左右待合室ノ分ハ前飾リハ赤阪産大理石ニシテ焚口ハ青銅製上飾リハ檜材ヲ以テ彫刻シ長三尺幅二尺五寸ノ鏡ヲ嵌入ス元來本建物ハ全部蒸汽暖房ヲ使用スルヲ以テ暖爐ノ如キ必要ナキカ如シト雖トモ一ハ以テ室內ノ裝飾トシ兼テ必要アル場合ニ之ヲ使用スルモノトシ其使用スル際ハ瓦斯ヲ用フルモノトシ瓦斯管ヲ布設シ之ニ相當スル設備ヲナセリ

各室内ニ裝置セル卓子椅子扇風機等ハ御休憩室ノモノハまほがに一製ニシテ椅子ハ絹張刺繡ヲ施コシ兩待合室ノモノハちく材製ニシテ椅子ハ絹張トス窓飾リ緞帳類ハ金地錦緞子絹毛交織等ヲ使用シ壁張リハ緞子ニシテ總テ京都西陣ノ製品敷物ハ絹緞通絨氈等ニシテ廊下ニ使用セル一部ヲ除キ總テ堺市ニ於テ製作セルモノナリ

暖 房 工 事

本建物ノ暖房装置ハ真空式蒸気暖房ニシテ本館ノ如ク其長サ幅ニ比シテ甚タ大ナルモノハ一ヶ所ニ汽罐ヲ定置スルトキハ先端ハ甚シク遠クナリ冷却スルノ恐アルヲ以テ本館ヲ折半シ之ニ適當ナル汽罐唧筒等ヲ南北兩端ノ地下室ニ設置シ本館各室内ニ据付タル放熱器ト連絡シ以テ南北各別ニ使用シ得可キ装置ヲナセリ



第 八 圖

割形汽罐ハ高六十七吋半長七十六吋幅五十七吋半れ一ちんぐ五千四百五十平方尺動力用汽罐ハ長八十一吋直徑三十吋火室ノ高サ三十一吋幅二十四吋半長二十六吋焰管數四十本其外徑二吋ナリトス之等汽罐其他ノ南部地下室ニ於ケル配置ハ第八圖ニ示スカ如シ北部地下室ノ分ハ室ノ形

地下室ハ室内ノ高サ低ク且ツ出入口小ナルヲ以テ大形汽罐ハ使用スルヲ得サルヲ以テ南北各室トモ汽罐ハ熱用及ヒ動力用ノ二種ニ分チ其熱用トシテ低壓鑄鐵製ニシテムわーまん分割型汽罐三基動力用トシテハろこも一ちぶ形一基ヲ備フ其壓力ハ一平方吋三十磅以内ニシテ之ニ依リテ各種ノ唧筒ヲ運轉スルノ用ニ供ス之等汽罐ノ大サハ分

狀ニ依リ多少異ナレリト雖モ大體ノ組織ハ同一ナリトス  
 熱用汽罐ヨリ放熱器ニ送リタル蒸汽ノ凝縮シタルモノハ復水管ヲ通シ真空唧筒ニテれし一ば一  
 ニ送リ更ニ汽罐專屬ノ補水唧筒ニ依リテ自動的ニ再ヒ汽罐内ニ補給スルモノトシ動力用汽罐ニ  
 モ亦專屬補水唧筒ヲ設ク其各種唧筒ノ運轉ニ供シタル廢汽ハ之ヲ蒸汽本管ニ送リ暖房用ニ供シ  
 又ハ溫水器ニ送リテ給水ヲ温ムルノ用ニ供スル裝置ナリ  
 熱ノ配給法ハ各汽罐ヨリ直ニ七吋鐵管ニ依リテ垂直ニ屋根裏ニ上ラシメ内徑五吋及六吋ノ鐵管  
 二條ニ分岐シテ屋根裏床上ニ布設シテ本屋ノ中央ニマテ至ラシム本管ハ其終端ニ至ルニ從ヒ漸  
 次直徑ヲ減シテ最終三吋及四吋ニ至ル而シテ本管ヨリ更ニ諸種ノ小管ヲ分岐シテ三階二階一階  
 ニ下リ各放熱器ニ通セシム屋根裏布設ノ本管内及各放熱器ヨリ生シタル蒸汽ノ凝縮セルモノハ  
 各所ノ堅管ヲ經テ一階床面ニ至リ床下ニ構成セル小管内ニ布設セル復水管ヲ經テ汽罐室ニ至ラ  
 シムルモノニシテ各堅管ノ下端ニハ熱働的ニ排水シ得可キとらッテ附設ス而シテ屋根裏本管  
 及一階室復水管ニハ所々ニ弁ヲ設置シ蒸汽ノ加減又ハ一部ノ使用中止修繕等ノ便ニ供セリ  
 屋根裏ニ布設セル本管及一階床面下ノ復水管分割型汽罐トモ總テ其外周ニハ保温ノ爲メあすべ  
 すとヲ塗髹セリ其厚サハ内徑四吋以上七吋以下ノ本管ニハ一吋半其他ノ鐵管ハ徑ノ大小ニ依リ  
 四分ノ三吋以上一吋四分ノ一以下ニシテ分割型汽罐ノ左右兩側及後部頂部ハ二吋半ノ厚サトセ  
 リ而シテ其保温塗料ノ乾燥シタル後更ニ麻布ヲ以テ全部ヲ包裹セリ又室内ニ表ハル、堅管及放  
 熱器表面ハ總テあるみに<sup>ウ</sup>いへんとヲ塗髹セリ  
 鐵管ノ總延長ハ内徑三吋ヨリ七吋ニ至ル本管二千七百十尺二分ノ一吋以上二吋半マテノモノ總  
 計一萬五千十尺ニシテ之等及放熱器ニ附屬セル弁類ハ各種ヲ合シテ總計五百七十三個ナリト  
 ス

放熱器ハ鑄鐵製ろこノ型二柱三柱及四柱ニシテ高各三十八吋ノモノ四柱ニシテ高三十八吋及四十四吋ノモノ及ゾえろあ型高三十八吋ノ各種ニシテ其使用セル總數ハ左表ノ如シ

種 類	一柱ノ 放熱面積 (平方尺)	一 階		二 階		三 階		計				
		個 所	柱 數	放熱面積	個 所	柱 數	放熱面積	個 所	柱 數	放熱面積		
ろこノ型二柱高 38"	4	2	24	96	21	168	67	509	2036	90	701	2804
同 三柱高 38"	5	12	262	1310	42	541	24	273	1365	78	1076	5380
同 同 高 44"	6	16	220	1320	4	56	16	224	1344	36	500	3000
同 同 高 45"	6	4	176	1056	—	—	—	—	—	4	176	1056
同 同 高 38"	8	2	27	216	8	108	5	58	464	15	193	1544
同 同 高 44"	10	34	494	4940	—	—	4	44	440	38	538	5380
同 同 高 38"	4	15	279	1116	—	—	—	—	—	15	279	1116
同 同 高 38"	7	—	—	—	1	—	2	—	14	3	—	21
計		85	1482	10054	76	873	118	1108	5663	279	3463	20301

放熱器ヲ配置セル各室ノ容積及放熱面積トノ比ヲ掲ケルハ左表ノ如シ

個 所	室 數	容 積 (立方尺)	放 熱 器 數	放 熱 面 積 (平方尺)	放 熱 面 積 一 室 容 積
下 廊	5	130210	15	1116	117
各 待 合 室 及 食 堂	8	322130	24	3192	101
事 務 室	18	249220	26	2560	97

階	南北八角廣室及其附近 小計	4	—	701560	20 85	3186 10054	— 102
二階	事務用室	18	230210	26	2109	109	
	旅館食堂	18	80240	28	1048	77	
	便所廊下計	9 4	136330 23350	18 4	1175 252	116 93	
三階	事務用室	4	470130	76	4584	103	
	旅館便所	32	332120	38	2791	119	
	廊下計	47 7	165640 100290	66 14	1974 898	84 112	
合	計	1769740	279	20301	103		

以上ノ設備ニ依リ旅館用各室ニハ華氏六十五度其他ノ各室ニハ同六十度ノ溫度ヲ保タシムルノ豫定ナリ

南北八角廣室ハ天井高ク容積トシテハ甚タ大トナリ又其附近ニ於ケル手荷物取扱所等ハ外氣ニ向ヒテ開放セル所アリ放熱面積ノ比ヲ求ムルモ他ノ各室ト同一標準ナラサルヲ以テ之ヲ省キタリ

從テ一階ノ小計及總計ニ於テハ此部分ヲ除キタルモノ、平均ヲ揭ケタリ  
煙突ハ本屋背部ニ於テ南北ニ各一基ヲ設ク(第九圖)機關室ヨリ之ニ通スル煙道ハ煉瓦造ニシテ外圍ハ燒過煉瓦内部ハ耐火煉瓦ヲ使用シ其内法幅二尺五寸高四尺ニシテ基礎ハ割栗石及混凝土トス



煙突ノ基礎ハ杭打地形ニシテ長三間末口七寸ノ松丸太ヲ一ヶ所ニ百二十本ツ、打入シ其上部ヲ地盤下十二尺五寸トセリ杭上ニハ八角形對邊距離二十尺高四尺ノ混凝土ヲ築造シ其上部ニ同八角形對邊距離下部十九尺上部十四尺高八尺五寸ノ煉瓦積ヲナシ其上部ヲ地盤ト均シクシテ基礎トナス煙突臺坐ハ八角形煉瓦造ニシテ對邊距離十二尺高十尺ニシテ其上部ニ鋼板製高百尺ノ煙突ヲ構成セルモノニシテ其頂部ハ地盤上百十尺ナリトス鋼板ノ下端ニハ鑄鐵製ノ坐鐵ヲ附シ鋼製徑二吋四分ノ一ノぼりと十本ヲ以テ混凝土以上ノ基礎ニ埋込ミ締置ス煙突鋼板部ノ頂上ノ內徑ハ三尺五寸ニシテ全部ヲ二十五段ニ分チ其上部ヨリ二十一段ハ約百八分ノ一ノ勾配ヲ以テ太メ下部四段ハ曲線ヲ以テ太メ最下端臺坐上ノ直徑ハ九尺二寸五分トセリ鋼板ノ厚サハ上部十二段ハ四分ノ一時中部九段ハ十六分ノ五吋下部四段ハ八分ノ三吋トシ内部ニハ鋼板隔段毎ニ煉瓦支持用シ形鋼ヲ取付ケ内部ヲ煉瓦積トナス其厚サハ上部四十四尺ハ四吋半以下三十七尺ハ六吋夫ヨリ以下底部マテ順次厚サヲ増加シ其內徑ハ上部ニ於テ二尺七寸五分下部ニ於テ三尺五寸

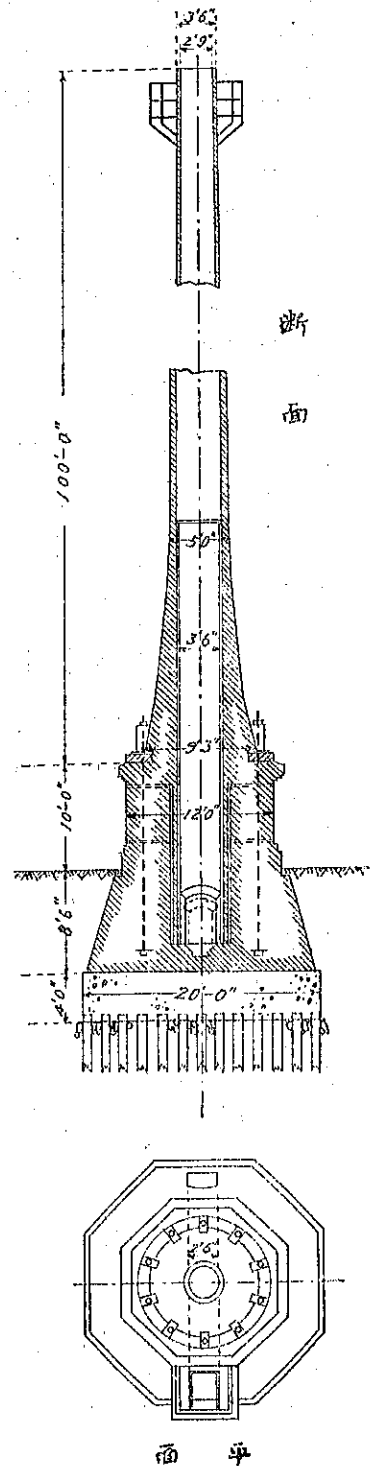


圖 九 第

トセリ煉瓦ハ上部ハ燒過煉瓦ヲ用ヒ下部十九尺ハ内周面ニ耐火煉瓦ヲ使用セリ

給水及排水工事

排水工事ハ便所内ニ於ケル汚水ト洗面所其他ノモノトヲ區別シテ排水セシムルモノニシテ其本  
 屋内ニ於ケル便所及洗面所ノ個所ハ十八ヶ所ニシテ其詳細ハ左表ノ如シ

個	所	個所數	大便器		小便器	洗面			鏡	洗面盤數
			洋風	和風		一人立	二人立	三人立		
一階	帝室專用	1	1	—	—	—	—	—	—	1
	乘降車專用	2	2	17	25	1	—	—	2-29	32
	車人務館專用	1	2	6	7	1	—	—	1-14	14
	婦人務館專用	1	2	—	—	2	—	—	—	8
二階	旅客務館專用	2	8	—	10	—	3	—	—	4
	旅客務館專用	4	9	—	6	2	—	3	—	15
三階	旅客務館專用	2	8	—	10	—	2	—	—	4
	旅客務館專用	4	14	—	12	—	4	—	—	14
	計	18	46	25	70	6	14	5	3-43	92

大便器使用後其汚水排除法ハ洋風ノモノ全部和風ノモノ六個ハ一ヶ所毎ニ三がるん入ノ水槽  
 ヲ備ヘ便器使用ノ都度清掃セシメ乗車口三等旅客用ニ對シテハ和風十三個ニ對シ五十がるん  
 入水槽二個ヲ備ヘ降車客用便所ニハ和風六個ニ對シ十六がるん入水槽二個ヲ備ヘ便器使用程  
 度ノ如何ニ依リテ一定時間毎ニ自動的清掃ヲ行ハシム小便所ノ内二三階ニ屬スル全部三十八ヶ  
 所ニハ各朝顔ヲ附シ尙一ヶ所毎ニ一がるん入ノ水槽ヲ附シ一階乗車客一二等用ノ小便所五ヶ

所ニハ各朝顔ヲ附シ水槽ハ五がるろん入一個ヲ備ヘ何レモ使用ノ程度ニ依リ定時間毎ニ自働的  
 清掃セシメ乗車客三等小便所二十ヶ所及降車客用七ヶ所ニハ朝顔ヲ用ヒス三方ヲ圍ムニ琢磨セ  
 ル石版石ヲ以テス其水槽ハ乗車客ノ分ハ十五がるろん入二個降車客用八十がるろん入一個ヲ備  
 ヘ何レモ定時間毎ニ自働的清掃ヲナサシム其排水スルニ當リテハ水ノ槽内ヨリ下リテ小便所前  
 面羽目板ノ上部ニ水平ニ裝置セル徑一吋半ニシテ横ニ數多ノ小孔ヲ穿テル管ニ入り小孔ヨリ放  
 出シテ羽目板前面ヲ洗ヒ後溝底ニ沿ヒテ排水スルモノナリ

便器ノ内洋風大便器、小便器朝顔洗面器、水栓、排水管ノ一部とらぶ水槽等ハ總テ米國もつと一會  
 社製品ヲ使用シ其他ノモノハ本邦製ノモノヲ使用セリ連續セル洗面盤ハ其盤ノミヲ購求シ臺ハ  
 大理石ヲ以テ作り又小便所ノ抽石羽目石ハ大理石或ハ石版石ヲ使用セリ其大理石ノ總計表面積  
 ハ千四百八十平方尺石版石ハ同二千三百三十二平方尺ナリ

大便器ヨリ排出スル汚物及汚水ハ何レモ徑四吋ノ鐵管ニ依リテ排水鐵管ニ接續セシメ小便所ノ  
 内朝顔ヲ有スルモノハ各二吋ノとらぶヲ經テ二吋乃至二吋半ノ鉛管ニテ排水本管ニ接續セシメ  
 朝顔ヲ有セサルモノハ之ヲ總括シテ三吋又ハ四吋鑄鐵製とらぶヲ經テ排水管ニ接續セシム洗  
 面器ノ排水法ハ洗面器ノ數ニ依リ大サ一吋半乃至二吋半ノ眞鍮管若クハ鉛管ヲ用ヒ其一部ハ便器  
 ト同一ノ排水管ニ接續スルモノアレトモ大部分ハ別ニ集水シテ雨水排水管ニ合セシメ大下水ニ  
 運フモノトス其雨水排水管ニ入ル前ニ於テ五吋U形とらぶヲ通過スルモノトス又屋内汚水排  
 出用鐵管ノ上端ニハ多クハ通風管ヲ付シ屋上ヲ貫キテ空中ニ立チ上端ハ開放シテ之ニ金網ヲ冠  
 セシム排水管ハ鑄鐵管ニシテ内徑四吋及五吋トシ本屋内ニアルモノハ勾配三十分ノ一屋外ニア  
 ルモノハ同百分ノ一ヨリ小ナラサル勾配ヲ有セシメ各所ノ分ヲ順次ニ總括シテ南北二ヶ所即チ  
 貨物運搬用隧道ノ前ニ集メ之ヨリ徑六吋勾配三百五十分ノ一ヲ以テ隧道内地中ヲ經テ高架線ノ

東方ニ出テ外濠沿ニ設ケタル沈澱池ノ前ニ至リ兩線合シテ一線トナリ沈澱池ニ入ルモノトス  
 沈澱池ノ大サヲ定ムルニ當リ先ツ一時間ニ於ケル排水量ヲ定ムルヲ要スレトモ之ハ便器ノ使用  
 程度ニ依ルモノニシテ精確ニ定メ難シト雖トモ大略トシテ小便器及大便器中自働排水ノ裝置ヲ  
 ナセルモノハ十分間ニ一回清掃スルモノトシ其他ノ大便器ハ各個トモ平均一時間ニ一回使用ス  
 ルモノト假定シ前記各水槽ヨリ一時間ニ排出ス可キ水量ヲ計算スレハ約千四百八十がるるん  
 日中平均十八時間使用スルモノトシ二萬六千六百四十がるるん即チ三千五百六十立方尺ナリ之  
 ニ約一割餘ノ排泄物ヲ加ヘテ四千立方尺トセハ大差ナカラシモノトシ沈澱池ノ大サハ之ヲ標準  
 トシ第十圖ノ如キ構造トセリ其表面積兩個ヲ合シテ千六百十六平方尺深サ六尺六寸トシ内深五  
 尺ニテ滿水セシムルモノトシ其容積八千八十立方尺即チ排出水量ノ約二倍ニシテ二日間ハ沈澱  
 セシメ得ルモノナリ

各排水本管ヨリ流下スル汚水ハ先ツAナル池ニ入りBハ二分ノ一吋鐵桿ヲ三寸毎ニ並列シタル  
 すくりんニシテ之ニ依リテ排水管ヨリ來ル紙及其他ノ混入物ヲ阻止セシメ汚水ハC管ヨリ沈  
 澱池ニ入り壁ニ沿フテ曲流シツ、沈澱シ澄水ハDナル管ヨリ外濠ニ排出ス而シテ時々池底ニ沈  
 澱セルモノヲ排除スルニハ池ノ一方ノ使用ヲ停止シ沈澱物ハE管ヨリ逆ニA池ニ入り更ニ池底  
 ヲ通スルF管ヨリ排出スルモノニシテ其排出口ハ外濠護岸石垣干潮面以上ニアリ故ニ排除ニ際  
 シテ河中ニ船或ハ其他ノ容器ヲ置キ其中ニ直ニ排除セシム以上各管ノ流入入口ニハ各々阻水瓣ヲ  
 附シ流入或ハ阻止共ニ適宜ニナシ得可キ裝置ナリ

沈澱池構造ハ圖ニ示ス如ク地盤以下十三尺五寸掘下ケタルニ其地質ハ砂ヲ混スル硬粘土層ニシ  
 テ構造物ニ對シテ充分安全ナル可キヲ以テ地層上ニ厚サ一尺五寸ノ粘土ヲ填充シ其上部ニ厚八  
 寸ノ混凝土ヲ築造シテ池底トナシ周圍及ヒ中間壁ハ厚一尺五寸ノ混凝土ヲ基礎トシ其上ニ煉瓦

ヲ以テ壁ヲ築造シ其高サヲ池底上六尺六寸トシ其上部ニ十二吋I形鋼ヲ中心間距離五尺ニ架設シ其上部ニ厚八寸ノ混凝土ヲ築造シテ池ノ全部ヲ覆フ混凝土ノ下部内方ニハ鐵筋材トシテ徑二分ノ一時ノ鐵桿ヲ縱横五寸毎ニ併置セリ混凝土ノ上部ニハ厚二尺八寸ノ土ヲ以テ覆ヒ其上部ヲ地盤ト同一ナラシム而シテ掃除其他ノ爲メ其上面ヨリ直ニ池ノ内部ニ入ルコトヲ得セシムル爲メニ幅三尺長四尺ノ人孔ヲ各池ニ二個ツ、設ケ平素ハ鐵製ノ蓋ヲ以テ覆フ

屋内及屋外ノ排水ニ使用セシ鑄鐵管ハ内徑三吋ノモノ五十四尺四吋ノモノ七百八十尺五吋ノモノ千七百尺六吋ノモノ二千二百二十尺十吋ノモノ九十五尺外ニ異形管各種ノ徑ヲ合シテ三百三十八個鉛管ハ内徑一時半ヨリ二時半マテヲ合シテ九百三十尺ナリトス

本屋南北兩端ニ於ケル地下室ノ高サハ零位上六尺五寸ニシテ附近ニ於ケル河川ノ滿潮面ヨリ低シ故ニ南北兩地下室トモ其附近ニ各一個ノ排水用水溜ヲ設ケ其貯水量ヲ約四百立方尺トシ干潮時ニ於テハ此水溜ヨリ下水本管内ニ自然ニ流下セシムルモ滿潮時ニ於テハ開閉器ニ依リ其放流口ヲ閉テ別ニ裝置セル電氣唧筒ニ依リ水溜ニ於ケル水量カ一定ノ高サニ達スルトキハ自働的ニ唧筒ハ運轉ヲ始メ水溜内ノ水ヲ吸出シテ下水管ニ放流セシムル構造トナセリ其唧筒ハ三吋井口式渦卷唧筒ニシテ工程ハ揚水量毎時三百立方尺電動機ハ交流二百二十ぼると二十五さいくる三相式三馬力直結型ナリ

給水工事 本停車場構内ニ給水ス可キ水道ハ麴町區八重洲町及有樂町間道路中ニ布設シアル水道鐵管ヨリ十吋鐵管ヲ以テ分岐シ本屋前通路内ニ布設シ更ニ直角ノ方向ニ八吋鐵管二條ヲ分岐シ本屋乗車口及降車口附近ニ至ラシメ之レヨリ六吋鐵管ヲ以テ本屋ノ外圍ヲ一周セシメ平均約二百十尺ノ距離毎ニ消火栓十一ヶ所ヲ置ク而シテ六吋鐵管ヨリ各所ニ於テ一時以下ノ鉛管ヲ分岐シ地中ヨリ壁内或ハ床下ヲ通シテ地下室ニ於ケル機關室、料理室及各階ノ便所、洗面所、水汲場等

ニ接續給水セシム量水器ハ十吋管ヨリ八吋管ニ分岐シタル所即チ南北二ヶ所ニ設置ス各管ノ數量ハ十吋鐵管千八百八十尺八吋管七百七十尺六吋管二千三百六十尺鉛管ハ一時以下二分ノ一時マテ各種ヲ通シテ二千六百尺ナリトス各管ノ分岐點ニハ阻水弁ヲ置キ尙各階ニ於テ必要ノ個所ニハ總テ水留栓ヲ定置セリ

停車場内ヤードニ於ケル給水ハ前記八重洲町ニ布設セシ十吋鐵管ヨリ八吋鐵管ヲ分岐シ鍛冶橋通り道路内ニ布設シ機關庫脇ニ於テ構内ニ入り量水器ヲ設ケ四吋鐵管ヲ東方ニ分岐シ本管ハ漸縮管ニ依リ六吋管トシ機關庫前ニ於テ三吋鐵管及鉛管各二條ヲ分岐シ消火栓一個及機關庫内ニ給水シ本管ハ尙延長シテ機關庫給水用堅管ニ接續セシメ又鉛管ヲ分岐シテ附近ニ於ケル事務室其他ニ給水ス又前記量水器脇ニテ分岐セル四吋鐵管ハ延長シテ客車洗塗庫檢車所灰坑洗車臺等ニ給水ス之等ヤード内ニ布設シタル鐵管ノ數量ハ三吋以上八吋以下ノモノヲ合シテ約二千九百二十尺鉛管ハ二分ノ一時以上一時以下ノモノ約四千六百七十尺給水栓百十一ヶ所ナリ

以上記載ノ外本屋内二階三階ノ南半部旅館トシテ使用スル所ニハ更ニ浴室ヲ設ケ各寢室ニ專屬スル浴槽十四個共同浴室ニ於ケルモノ十個大便器十七個洗面盤ハ各寢室ニ專屬スルモノ及浴室化粧室等ニアルモノ合計七十四個アリ之等ハ新ニ鐵管或ハ鉛管ヲ布設シテ既設排水本管ニ合セシメ汚水及洗面器浴槽ノ排水一部ハ沈澱池ニ導キ其他ハ下水管ニ放流セシムル計畫ナレトモ現ニ工事中ニ屬スルヲ以テ數量其他詳細ハ未タ掲クルヲ得ス

## 電氣工事

本停車場内ニ使用スル電力ハ全部矢口發電所ヨリ供給ヲ受クルモノニシテ永樂町變電所ヲ經テ受電ス電氣方式ハ三相交流二十五さいくるニシテ發電所發生最大電壓ハ一一〇〇〇ボルトトス

永樂町變電所ニハ油冷却式單相遞降變壓器容量一五〇きろわつとノモノ四基内一基ハ豫備トス  
及配電盤三面ヲ備ヘ發電所ヨリ受電スル一〇〇〇ヰと回線ヨリ分岐シテ三三〇〇ヰ  
トニ降下シ全容量四五〇きろわつとノ内大略本屋ヘ三〇〇同操車ヤードヘ四〇本院及附屬試驗  
所ヘ八〇新橋停車場ヘ三〇きろわつとノ豫定ニテ配電ノ裝置ヲナス

又本停車場ニハ拱橋下ニ於テ南北二ヶ所ニ高壓及低壓配電ノ二室ヲ有スル變電所ヲ設ケ永樂町  
變電所ヨリ送電スル三三〇〇ヰとヲ地中線ニ依リ北變電所高壓室ニ入レ單極遮斷閉器ニ  
依リ分岐シ一ハ直ニ同室變壓器ニ他ハ更ニ地中線ニ依リテ南變壓室ニ至ラシム(新橋停車場ニ送  
電スルモノハ本線ヲ併用シ南變電所ヨリ分岐ス)

南北高壓室ニハ各油冷却式單相遞降變壓器容量五〇きろわつとノモノ四基内一基ハ豫備及受電  
用並ニ送電用高壓配電盤二面ヲ裝置シ三三〇〇ヰとヲ二二〇及一一〇ヰとノ二種ニ變  
壓シ二二〇ヰとヲ動力回線ニ一一〇ヰとヲ電燈回線ニ配電ス可ク更ニ之ヲ低壓配電室  
ニ導ク之カ爲メ南北各配電室ニハ二二〇ヰと動力用配電盤四面ツ、一一〇ヰと電燈用  
配電盤四面(南ハ五面)ヲ設置ス

動力回線ニ依リテ送電ス可キモノハ本屋内昇降機三臺乘降場荷物及郵便物用昇降機十六臺地下  
室排水用揚水唧筒二臺及充電用電働發動機等ニシテ電燈回線ニ依リ送電ス可キモノハ本屋内及  
乘降場ニ於ケル配電線本屋前廣場電燈用配電線ニシテ電線ハ何レモ三心入鍍裝鉛被紙けいぶる  
一條乃至二條ヲ布設ス高架線東方ヤード及各事務所作業所等ノ電燈ハ總テ南北配電室ヨリ直ニ  
送電ス

電線路ハ總テ地中線ニシテ配電盤トけいぶるトノ接續個所ニハけいぶるへつどヲ使用シこんば  
ラんどヲ注入シテ絶緣セリ又けいぶるハ布設後砂ヲ以テ覆ヒ煉瓦ヲ併架シテ蓋トナシ充分ニ保

護シげーぶるノ接続及分岐點ニハすとれーと、じょいと、ぼくくす、丁形じょいと、ぼくくすヲ使  
用シ各心線ヲくらんぷニテ固ク締メ付ケ之ヲ箱中ニ納メタル後絶縁てーぶニテ包ミこんぱうん  
どヲ注入セリ

動力回線ニ依リ配電スル諸器械ノ種類ハ本屋内昇降機ハ十八馬力荷物及郵便物専用ノ昇降機ハ  
九馬力揚水唧筒ハ井口渦巻ぼんぷ三馬力ニシテ何レモ誘導電働機ヲ備フ充電用電働發電機ハ二  
〇〇ヰと容量三きろわつと直流分捲發電機ニシテ勵磁調整器ニ依リ一〇〇ヰとマテ加  
減シ得可ク四馬力電働機ヲ直結シテ運轉シ蓄電池ニ充電シ三心地中けーぶる二條ニ依リ本屋内  
ニ引込ミ分岐シテ電信、電話、電氣時計等ニ使用スルモノトス

電氣時計ハ電氣室内ニ親時計トシテ十五回線ヲ有スルモノ一個ヲ備へ之ヨリ配電スル子時計ハ  
南北出入口高塔内ニ徑六十吋ノモノ二個乗降場ニ徑二十四吋両面ノモノ六個本屋内各待合室食  
堂事務室等ニ徑十五吋乃至十八吋ノモノ十三個同十二吋ノモノ四十五個ヲ定置ス

電燈回線ニ依リ本屋内電燈ニ配電スルモノハ六個ノ配電線ニ依リ一階各所ニ設置サレタル配電  
盤ニ導キ更ニ之ヲ一階二階三階ニ分岐シ(内南端ニアル一ヶ所ハ三階ニ分岐セス地下室ニ配電ス)  
合計十八面ノ配電盤ニ依リ各電燈、扇風機ニ配電スルモノニシテ電線ハ屋根裏ノ一部ヲ除クノ外  
全部隠蔽こんぢゅつと、ちゅーぶ工事トス乗降場ハ全部露出線ニシテ六面ノ配電盤ヲ備へ全電燈ニ  
配電ス操車やーど方面ニ於ケル機關庫其他各事務所工作場詰所等ノ電燈ハ架空線ニ依リテ直接  
永樂町變電所ヨリ送電シ油冷却式單相遞降變壓器容量五きろわつとノモノ八基ヲ柱上三ヶ所ニ  
配置シテ三三〇〇ヰととラー一〇一〇五ヰとニ變壓シ夫々所要ノ電燈ニ配電ス  
以上配電ニ依リ本屋内及各方面ニ設備セル電燈ノ種類及員數ヲ記セハ左ノ如シ



個所	まづだ、たんぐすてん電球						空素電球	合計
	250 W	150 W	100 W	60 W	40 W	25 W		
本屋一階各室	29		213	215	89	26	572	
同二三階各室及階段			14	90	254	2	360	
同地中室		14		100	54	10	64	
乗降場及通路	64	12	24	93	180	56	234	
やーど内建物其他		26	251	498	577	31	340	
計	93					125	1570	

本屋内二階及三階ハ現ニ使用セル各室内及二階廊下ノ一部ニシテ三階ニ於テハ唯南北出入口廣室ニ裝置セルモノニ過キス二階ノ殘部及三階ノ殆ント全部ハ爾後室ノ用途ノ定マリタル後電球ヲ取付クルノ豫定ナリ特ニ二階三階ノ南半部即チ旅館トシテ使用ス可キ部分ノ電燈ハ目下設計中ニ屬シ員數等未タ確定セス

本屋前面廣場ニハ高サ三十尺ノ鐵柱十八本ヲ建設シ各柱ニ一千燭光ノ空素電球二個ツ、ヲ點火シ外ニ帝室用馬車廻シ附近ニ高サ二十尺ノ鐵柱六本ヲ建テ各柱ニ五十燭光まづだ、たんぐすてん電球三個ツ、ヲ點火ス之等ニ配電ス可キ電線ハ全部地下線ニ心入鐵裝紙けいぶるニシテ南北配電室ヨリ出ツル六條ノ三心けいぶるヨリさーびす、ぼくすヲ使用シテ分岐シ接續セシム

高架線及やーど方面ニ於ケル屋外電燈ハ永樂町ヨリ鍛冶橋ニ至ル間本屋側拱橋上鐵塔上ニけいぶるヲ架設シ線路附近ニ二千燭光まづだ空素電球十二個自熱電燈十數個ヲ點シ操車やーどニハ二千燭光まづだ空素電球十四個洗車臺附近ニハ六十わつと、まづだ、たんぐすてん電球四十七個ヲ

### 點火スル本屋前面路面及排水工事

本屋前面廣場ハ八重洲町通道路側ヨリ本屋マテ東西約六十間南北約七十間ニシテ道路面ト本屋出入口トハ同一水平面ニアリ故ニ廣場路面排水ノ爲メニ中央三ヶ所ニ約二尺程ノ低地ヲ作り其周圍ニ境界下水ヲ設ケ内部ニ更ニ盛土ヲナシテ人道及植込地トナシ道路路面ハ總テ此三ヶ所ニ向ケ三十分ノ一乃至六十分ノ一ノ勾配ヲナサシメ路面ノ雨水ハ總テ境界下水ニ流下セシム而シテ排水本管トシテハ本屋前面ニ於テ本屋ニ並行シ南北ノ方向ニ暗渠ヲ設ケ境界下水及本屋堅樋ヨリ流下スル雨水ハ總テ之ニ放流セシム暗渠ノ終端ハ八重洲町附近一帯ノ雨水ヲ外濠ニ排除セシムル爲メニ既設セル暗渠ニ接續ス

本屋裏ト拱橋トノ間ニアル地ノ雨水モ又之ヲ所々ニ集メ陶管暗渠ニ依リ既設下水管ニ放流セシム

排水本管ハ長千二尺卵形煉瓦造ニシテ長徑五尺二寸五分短徑三尺五寸其上半部ハ一枚卷下半部ハ半枚卷ニシテ其兩側ニ混凝土ヲ築造ス基礎ハ杭地形ニシテ長二間半末口五寸ノ松丸太ヲ二千八十八本打込ミ杭上ニ一尺五寸ノ混凝土ヲ築造ス煉瓦管底ノ勾配ハ五百分ノ一ニシテ上流即チ北端ニアリテハ管底ハ地盤下八尺零位上六尺五寸南部即チ既成下水管ニ接スル所ニ於テハ地盤下十尺五寸ナリ既成下水管ハ之ヨリ五百分ノ一ノ勾配ヲ以テ外濠ニ放流ス排水本管内ニアル人孔ハ四個ニシテ全部混凝土ヲ以テ築造ス形狀ハ圓形ニシテ上部内徑一尺八寸下部内徑五尺厚サ一尺二寸深サハ九尺乃至十一尺五寸ナリトス

他ノ排水管ハ床或ハ構造物ノ下ニアルモノハ鐵管ヲ使用シ其他ハ總テ陶管トス鐵管ハ内徑五吋六吋八吋ノ三種ニシテ陶管ハ徑三寸ヨリ一尺二寸マテナリ之等ノ管ノ屈曲點或ハ多數ノ管ノ集

合スル所ニハ煉瓦造柵ヲ用ユ其大サハ陶管徑ノ大小ニ依リ内法一尺二寸角ヨリ二尺五寸角マテニシテ上面ハ路面ニアリテ鐵蓋ヲナシ下底ノ深サハ管ノ勾配ニ依リテ異ナレトモ最モ低キ管底ヨリ五寸以上深カラシメタリ之等ノ管ノ總延長ハ鐵管百十間陶管千三百二間柵百四十三個ナリトス

植込地周圍及廣場ノ南北ニアル步道ノ境界下水ハ形ナル混凝土造トシ縁石ハ花崗石トス幅内法二尺一端ノ深サ五寸トス境界下水ノ下部ニハ内徑八寸乃至一尺ノ陶管ヲ布設シ境界下水面ニハ約三十尺ノ距離毎ニ三寸陶管ヲ以テ下水底ト陶管トヲ垂直ニ連結シ以テ下水ニ集注セル雨水ヲ陶管内ニ流下セシメ之ヲ卵形大下水ニ導ク境界下水ノ總延長ハ五百四間ナリ

路面ハ大部分ハ割栗石及碎石ヲ以テ築造シタルトモ步道及其附近ニ於テ車馬ノ通行多カラサル部分ハ單ニ砂利道トセリ築造方法ハ地盤ヲ所要ノ深サニ掘リ下ケ八噸道路用ノ一ら一ヲ以テ數回運轉壓迫シ割栗石ヲ以テ厚八寸ニ築造シタル上ニ大サ一寸内外ノ碎石三寸ヲ二回ニ散布シ每回一ら一ヲ運轉シ充分壓迫シタル後上部ニ眞土七八分通リヲ置キ更ニ其上ニ四分目篩砂利一寸ヲ散布シテ路面トナス步道其他ハ地盤ヲ一ら一ニテ壓迫シタル後砂利厚四寸ヲ散布シテ路面トナセリ割栗石路面ノ總面積ハ七千二百四十七坪砂利道三千三十六坪外ニ本屋裏其他ニ於テ道路外ニ砂利厚二寸ヲ散布セシモノ約千二百坪アリ

前面廣場中ニアル三ヶ所ノ植込地ハ地盤ヨリ約二尺五寸盛土シテ芝地トナシ之ニ樹木ヲ植込ミタレトモ元來此植込地ハ廣場排水ノ必要上作りタルモノニテ本屋ノ前庭トシテ計畫シタルモノニアラサレハ其樹木ノ如キモ從來ヨリ本停車場構内ニ現存シタルモノヲ移植シ又新ニ苗木ノ如キモノヲ購入植込ミタルニ過キサレハ其趣味或ハ風致ニ乏シキハ元ヨリ免ル可カラサル所トス然レトモ本廣場ノ如キハ多數公衆ノ眼ニ映スル所ナレハ苗木ノ如キモ數多ノ種類ヲ選ミ特ニ外

國種ヲモ多數ニ混用シ將來成木セルトキニ於テ多少參考ニ資セントシ帝國大學農科大學ヨリ諸種ノ苗木ノ讓與ヲ受ケ移植シ置ケリ故ニ植込地ノ樹木數ノ少キニ拘ラス種類ハ殆ント六十種ニ達セリ

## 工程及使用材料

本屋建築工事ハ明治四十一年三月二十五日起工シ大正三年十二月十五日竣工セリ其間日子ヲ費ヤスコト六年九ヶ月ナリト雖トモ本工事ハ其全部ノ設計ヲ終ラサルニ先チ基礎工事ヲ實施セシカ其工事中支障ナク進工セシヲ以テ竣工後直ニ上部工事ニ引續クコト能ハスシテ約一年一ヶ月餘中斷セリ故ニ實際施工セシ期間ハ五年七ヶ月餘ナリトス今主要ナル工事ノ工程ヲ舉クレハ左ノ如シ

本屋基礎	着手明治四十一年三月二十五日	竣工明治四十二年六月十七日
鐵骨製作	同 四十二年十月一日	同 四十四年七月三十一日
鐵骨現場組建	同 四十三年八月一日	同 四十四年九月十二日
壁及床築造	同 四十四年四月二十日	大正二年五月十八日
木材購入	同 四十五年四月十三日	同 元年八月八日
屋根及各階内部造作	同 同 五月十七日	同 三年三月十九日
大理石据付	同 同 七月一日	同 二年十一月二十二日
電氣工事電線布設	大正元年九月十六日	同 同 十二月二十八日
一階床面敷瓦人造石土瀝青布設	同 同 十月一日	同 同 九月三十日
暖房裝置	同 同 十一月二十五日	同 同 三年三月四日
便所洗面所裝置及排水管布設	同 同 十二月一日	同 同 三年九月三十日

本屋建築工事ニ使用セシ主ナル職工人夫數ヲ其種類及工事別ニシテ掲クレハ左ノ如シ(監督用工夫數ハ除ク)

排水用沈澱池築造	同	二年十月十四日	同	三年四月三十日	
本屋前面廣場路面築造	同	十月十五日	同	三年八月二十日	
壁畫、窓飾、敷物、家具等	同	三年二月三日	同	三年十月十五日	
電燈器具、電氣時計取付	同	九月一日	同	三年十二月十五日	
二階三階旅館設備	同	十二月一日	工	事 中	
本屋建築工事ニ使用セシ材料ハ前各項ニ於テ其一部ハ記シタリト雖トモ今主要材料ニ付各項ヲ總括シテ掲クレハ左ノ如シ					
松丸太	一一〇五〇、	本	床面舖料(敷瓦、人造石、土濘膏板)	二四九七、	坪
混凝土	一九一〇、	立坪	屋根石版膏	二二八五、	坪
花崗石	八三三九五、	切	同銅板膏(蛇腹、小壁等ヲ含ム)	四二七三、	坪
鐵骨用鋼材	三二三五、	噸	ぺいんと塗面積	一七四七四、	坪
其他ノ鐵材鐵具	三八一、	噸	漆喰塗面積	一四〇五九、	坪
木材	一八二〇〇、	尺 <sup>2</sup> 本	建具數	三六四九、	個
せめんと	二八八四三、	樽	電燈數(本屋內)	九九六、	個
煉瓦	八三三二〇〇、	個	同 (廚場及ヤード)	五七四、	個
化粧張付煉瓦	九三四五〇〇、	個	暖房放熱器	二三七、	組
大理石	一八〇三二、	平方尺			

630

大工 (製材職及建 具職ヲ含ム)	一五三、一三七	人	基礎工事	六〇、四五一	人
鷹職	一一二、七一二	人	鐵骨製作工事	九九、一〇八	人
鍛冶工	一一八、四〇一	人	鐵骨組建工事	三六、二三七	人
石工	八八、一二六	人	壁及床工事	二二、五三五〇	人
煉瓦工	二四、三四四	人	屋根及内部工事	二二、〇〇九七	人
電工	六〇、六二	人	暖房工事	一五、一五八	人
銅工	一一六、四七	人	電氣工事	一四、三二四	人
べいんと職	一三八、九〇	人	排水工事	一四、〇三七	人
左官職	一一三、二七三	人	路面築造工事	四三、九四四	人
其他各職工	一一七、七四	人	諸建物及雜工事	一八、五八八	人
各職工手傳人足	七二、二五〇	人	計	七四七、二九四	人
土方人足	九一、三五九	人			
並人足	二〇、三一九	人			
計	七四七、二九四	人			

使用セシ職工人夫ノ數ハ前表ノ如シ之ヲ工事施工期間ニ比スレハ一日ニ付平均三百人餘ニ相當  
スレトモ工事ノ最モ繁劇ナリシ大正元年及二年ニ於テハ一日ニ八百人乃至一千人ヲ使役セリ斯  
ク多數ヲ使用シ且ツ鐵骨組建中ノ如キ危險ノ度多カリシニ拘ラス施工上ノ設備宜シキト職工各  
自ノ注意トニ依リ何等記ス可キ事故ヲ生セサリシハ幸ヒナリキ只就業中職工四名誤テ高所ヨリ  
墜落慘死セシモノヲ出セシハ實ニ痛恨ニ堪ヘサル所ナリトス

工費

停車場木屋及附属建物ノ建築ニ要セシ總工費ハ金二百八十二萬二千五百圓餘事務費及監督費ヲ除クニシテ其内譯ハ左表ノ如シ

種目	數量	單位	金額	摘要
(1) 基礎工事費				
松杭	一一〇五〇	本	一五八七七六、〇二七	長二間ヨリ四間末口七寸打込費ト也
混泥土	八一、六	立坪	六一七九三、八〇五	
煉瓦工	四〇七三〇四	個	一三三八八、二一七	
花崗石工	二〇四一七、七	切	四二〇三四、二〇八	
ぼーると	三〇七八	本	一一〇〇、九二〇	基礎石上ニ鐵骨用鐵柱床版取付用
あすはると塗料			四八三一、四二二	地下壁ヲ有スル部分ノ床面防水用
山留用松材其他雜品			三九一二、六九〇	
建築用具費			一四七三二、七一〇	
運送費			一一九三、四〇〇	
小計			三〇一七六二、三九九	平均面積一坪ニ付二八、三四二
(2) 鐵骨工事費				
鋼材代價	三三三五、五九三	噸	二八七八七五、一八〇	平均一噸ニ付九一、八〇九
製作及組建費	三一三五、五九三	噸	二四六三二一、二七七	同 七八、五五六
ぺいんと塗料	約二五五〇〇	坪	二〇五九五、三〇〇	
雜費			五四一九八、五五〇	
小計			六〇八九九〇、三〇七	平均一噸總工費一九四、二一八

(3) 壁及床築造工事費

花崗石工	六二一四一、六七	切	一八五八九九、八四〇
煉瓦工	七五六三六七〇、	個	一八二八八七、二〇二
化粧張付煉瓦工	九二五二〇〇、	個	五一八〇六、九〇〇
砂利混泥土	二五二、五五	立坪	一四五八五、八〇〇
石炭滓混泥土	五九〇、四三	立坪	三四七二五、三九〇
煉瓦片混泥土	二四六、九二	立坪	一四七七六、〇八〇
鐵材	一一一、九	噸	二〇六九一、九五〇
土工			一四六二三、五五〇
雜工			二一四一〇、四三三
雜費			四一一三〇、〇〇〇
小計			五八二五三七、一四五

(4) 屋根及各階内部造作工事費

各種木材	一八二〇〇、	尺 $\times$ 本	一五四五九〇、六九〇
ちく材	五二、二	尺 $\times$ 本	四〇九六、〇〇〇
木材製材費	一八二〇〇、	尺 $\times$ 本	二七三〇〇、〇〇〇
同 工作費	一一〇、一三、六	坪	二一三一四一、六〇〇
屋根石版葺	二二八五、五	坪	二四四五四、八五〇
銅工事	四二七三、四	坪	九〇九四四、五五〇
鐵物工事		坪	一〇二五五二、五七〇
建具		坪	五五九二七、八〇〇
漆喰塗		坪	四六九六〇、一〇〇
出入口	七五六、	ヶ所	
窓	一四〇五九、	坪	

表面一坪ニ付平均工費二三、六〇〇

階段用一部鐵材、石及煉瓦繫鐵物、出入口底用鐵材一部等  
埋立、盛土、刺栗石埋堅メ等  
あすはると塗料、木煉瓦其他

もるたる及混泥土混摺器、材料運搬用昇降機、軌條其他材料及足代棧橋等式

檜、樺、松、槻等圓材及角材

屋根葺蛇腹屋上小壁、壁樋等一式  
階段ノ一部、屋上小壁鐵骨、欄干、鐵戸、庇其他木材繫結用鐵具其他一式  
建具用木材、建具金物トモ一切



外部擬石塗	一六五〇、	坪	八五八〇、〇〇〇	建具用硝子及屋根硝子等
ぺいんと其他塗料	一九九三三、	坪	三三七七五、五〇〇	
硝子	三一九八二、	平方尺	一四一二七、一〇〇	
大理石	一六五五二、	平方尺	三八八九六、五九〇	
床面舗料敷瓦	四〇五、五三	坪	九二二〇、九〇〇	
同 人造石	一六二、	坪	二九六九、〇〇〇	
同 土瀝青	一九三〇、一六	坪	二五二〇七、〇二八	
昇降機客用	三、	ヶ所	二六八一、四九五	
同 料理場用	三、	ヶ所	一六二三、二三五	
同組建及周圍鐵柵	三、	ヶ所	一一七五五、七二八	
雜工事	三、	ヶ所	三七九二二、六七五	
小計	九三〇八五七、四一一	ヶ所	九三〇八五七、四一一	寄木張、暖爐、壁紙、羽目板象嵌、天井へ にお板、人造石、幅木、暖房用戻水溝等
(5) 室内裝飾、家具等工事費				
壁畫	二二四、	坪	四二七〇、〇〇〇	帝室用玄關磨間ニ畫キタルモノ
敷物	七一一七、四九〇	坪	四六六六、七九〇	帝室用各室内ニフル絹緞通、絨氈、リの リゆむ等
窓飾及日除	一一三三三、〇九〇	個	一一三三三、〇九〇	帝室用各室及一般各符合室其他
家具	二七四三六、三七〇	個	二七四三六、三七〇	帝室用各室及一般各符合室ニ屬スル卓 子、椅子、腰掛等
小計	二一五八七、四六〇	尺	二一五八七、四六〇	
(6) 給水及排水工事費				
給水用鐵管工費	二七九二、四一〇	尺	二七九二、四一〇	量水器二個、消火栓十一個及布設用諸材 料工費等一式ヲ含ム
同 鉛管工費	二七九二、四一〇	尺	二七九二、四一〇	諸材料及布設工費ヲ含ム

排水用鐵管代價 同 鉛管代價	四七四九 九三〇	尺 尺	六五四九、七〇〇 五四二、〇〇一
便器及洗面器			
大理石及石版石	三六一二	平方尺	一四五四一、六四二
諸材料			
排水用取付工事費			
沈澱池築造工事費			
(7) 暖房工事費			
分制型汽罐	六	個	一四九二一、四〇〇
ろこもちいぶ型汽罐	二	個	一五五九、八〇〇
暖房放熱器	二二七	組	二二〇〇二、五五〇
鐵管及弁類			
取付費及塗料			
鋼製耐震煙突	二	基	一二二一五、八九〇
(8) 電氣工事費			
屋内用けいぶる	七二二〇	尺	八九三九、七九八
同 被覆線	一九〇八三八	尺	八一九〇、三七二
同 こんぢゅうと、ちゅうぶ	六〇五四五	尺	六二八一、四八五
同 配電盤	二〇	個	一一九六、〇〇〇

洗面盤及小便所袖石羽目石等

同	電燈器具		一一六七二、八四五
同	諸材料		七二六六、二七二
同	取付工費		七二〇七、五二〇
同	附屬上家電燈取付		七七五、六八〇
同	本屋前廣場用電燈	個	一五七五九、五五六
同	やど電燈	個	* 一一三九二、四六五
同	變電室器械据付		* 二二七一、九五〇
同	電氣時計		* 二七三九、〇〇〇
同	通信設備		* 九〇八八、〇七〇
同	小計		一一三三二、二〇一三

各種電燈八三四、電燈球一九一六、ほろへんし、やど六四三等何れも豫備ヲ含ム

未タ一部竣工セサル所アルヲ以テ豫算ヲ掲ケ

同 同 同

(9) 本屋前面廣場路面築造及排水工事費

卵形下水管	一六七	間	一六〇〇五、五〇〇
陶管及鐵管	一四一、二三	間	一〇三〇九、七九〇
境界下水溝	五〇四		一〇八八五、五〇〇
敷石路面	一七〇、六	坪	七二二八、二〇〇
割栗石路面	七二四、七	坪	三三六九八、五五〇
砂利路面	三〇三、六	坪	五一六一、二〇〇
植込地	一〇一、五	坪	六五七九、七五〇
雜工事			一二八〇、八一〇
小計			九一一四九、三〇〇

人孔四個ヲ含ム  
煉瓦遊歩ヲ含ム

樹木ヲ含ム

(10) 雜工事

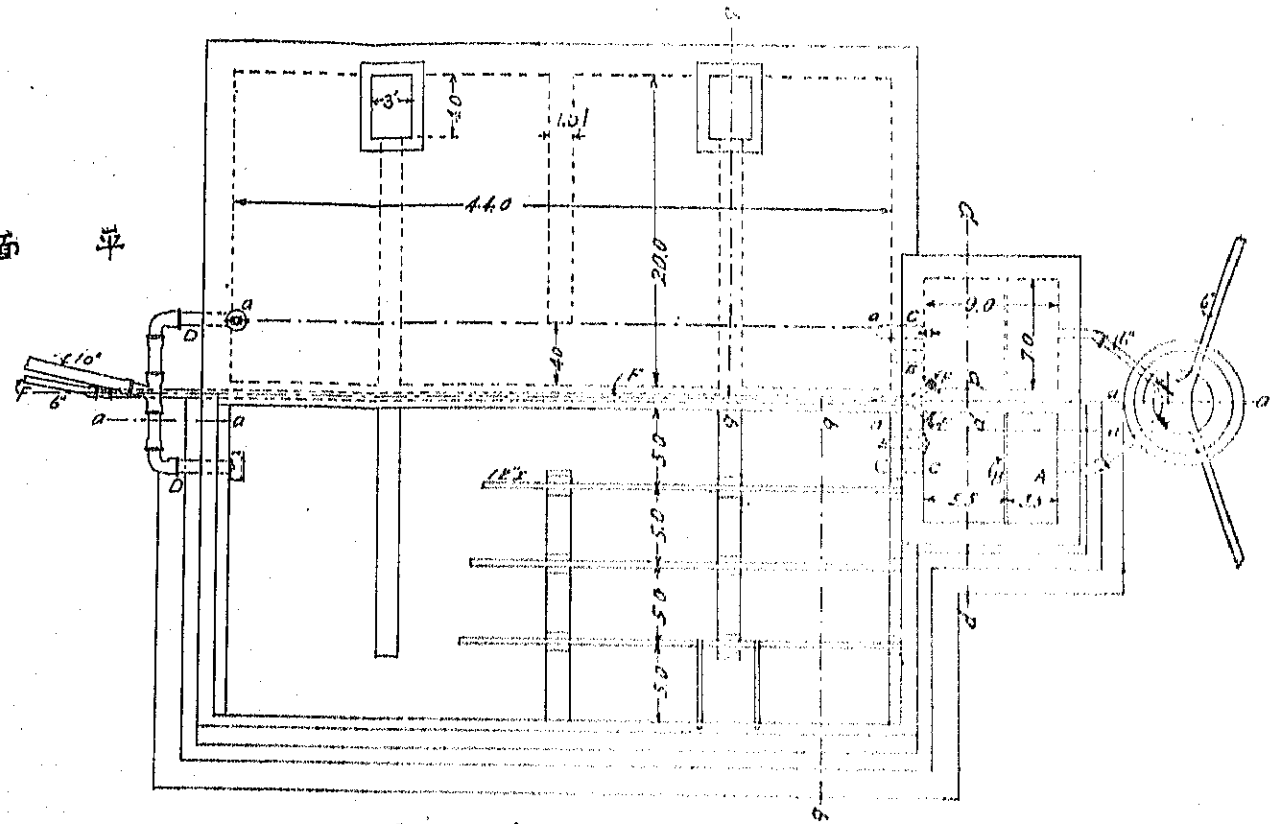
附屬諸建物	一八五二四、三四五
雜工事	七八二八、二一〇
小計	二六三五二、五五五
總計	二八二二〇、五〇二六

\* 印ヲ附シタルモノハ未タ一部竣工セサル所アルヲ以テ其豫算額ヲ掲ケタリ  
 以上ノ外木屋二階及三階ニ於テ中央ヨリ以南ハ旅館トシテ設備スルモノニシテ現ニ工事中ニ屬  
 スレトモ其工事費ハ家具及裝飾費ヲ除キ大略十六萬圓ヲ要ス可シ故ニ之等工事ノ全部竣工ノ上  
 ハ總費額ハ約二百九十八萬圓ニ達ス可シ  
 以上ハ停車場木屋及附屬建物ノ建築費ニシテ更ニ停車場構内全部工事ノ内重ナルモノヲ舉ケ概  
 算スレハ左ノ如シ但シ\*印ハ豫算ニシテ又事務費及監督費ハ算入セス

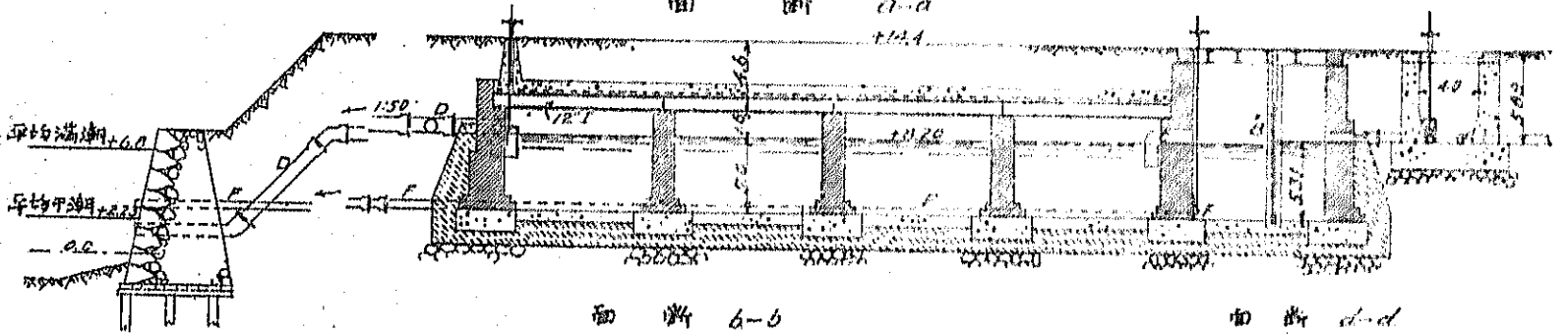
- 停車場木屋及附屬建物建築費 二八二二〇、五〇二六
- 拱橋軌道建造費(昇降口階段等一切ヲ含ム) 六九九三八二、七一
- 鐵桁架設費 四八七四〇、一四五
- 軌條費 \* 一五八二六三、六二〇
- 構内地築及地下道費 三六九八八、五〇八
- 乘降場建築費 九八三〇七、九五八
- 郵便物運搬通路築造費 一〇六二五一、一九七
- 諸建物費 一〇一二七〇、九一五
- 合計 四〇七一、二一〇、〇八〇

(完)

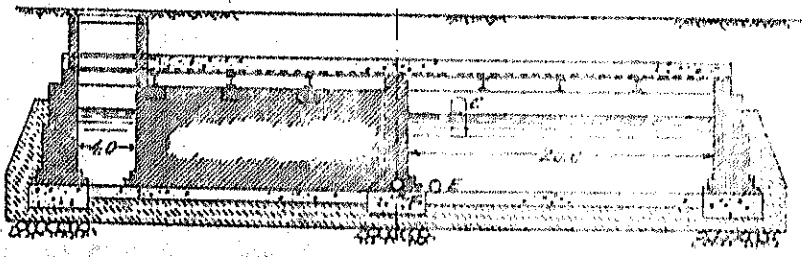
面 平



面 断 a-a



面 断 b-b



面 断 c-c

